

コロナに感染して

長岡ゆりこ大阪市議の手記

新型コロナウイルスに感染しました。

日本共産党の長岡ゆりこ
大阪市議の手記を紹介し
ます。

◇

7月26日、息子が38・5度の発熱。検査先を探し、診察券のある病院に数件問い合わせました。が、爆発的な感染拡大で「2週間前は誰でも、先週までは診察券があれば検査していたが、今週から3カ月以内に予約が入っている方だけが対象」という病院など、全て断られ「検査難民」になり

人情報でした。初診で検査オッケーの病院に、数回の話し中もめげずにコールし、ようやく検査を受けて「陽性」と判明。検査は無料で、初診料3000円程度を支払いました。知人情報では、抗原とPCRを同日に検査して「陽性」となっても実費1万円程度が必要となるなど、「コロナは医療費無料」とは言い切れない現状です。

2日後に私も発熱。39

度台にじわじわ上がり、頭痛と喉の痛みでぐったり。検査の手配や病院への運転など、2人とも発

病院断られ「検査難民」に

熱状態では身動きが取れず。37度台に下がるまで待つて、発症6日後によろやく検査できました。食料配達を頼める友人がいたので、配食サービスは申し込みませんでした。知人たちからは「病院からの発生届が遅いと、(食料配達を)申し込

みができない」「(食料)が届いたのは、療養期間が明けてから」など、療養開始からすぐに届くよう改善を求める声が多数でした。療養後半は、激しく嘔吐(おうと)して(息子は下痢も)一番つらい思いをしました。何か口にすると頭痛と吐き気が激しくなり、自宅待機者24時間緊急サポートセンターに電話しました。すぐつながったものの、「市販薬を飲んでください」「スポーツドリンクは吐き気を誘発する場合があります。必要性感じました。

るので、ゼリーを食べると良い」との指示のみ。数日、白湯(さゆ)とブチゼリーで命をつなぎました。ちなみに味覚に変化があり、白湯が甘く感じました。1カ月たった今も倦怠(けんたい)感や頭痛などの後遺症が残りましたが、これで「軽症」扱いです。

コロナ開病で感じたのは、①「検査難民」で自主的自宅療養の方が大勢いるのでは②濃厚接触者

は一番の「検査難民」③自宅で症状が悪化するのと、医療にたどりつけないでした。症状に個人差が大きいコロナですが、特に大阪では重症の方も多いのです。誰もが安心して医療を受けられるよう、発生数把握の制限や(季節性インフルエンザと同等の)「5類」移行などは、慎重に考える必要性感じました。



長岡ゆりこ
大阪市議